拾集業抜源

弟四

武

へ 13
3313
2

門へ13
義3318
巻2

# 諸家一代記



金沢藩

諸家系図伝第百二

一 諸家の系の事

并 諸家系図の事

一 稲川貞盛より系譜の事

并 筑波二系の事

大正十年八月廿九日
本大學出版部
贈

諸家系図纂 源氏 二

諸家系図纂 泉水家 百五十六

諸家系図纂 泉川 清和

諸家系図纂 吉澤 斯波 長利 が嫡子 第五

長時 号 孫 諸家 玄蕃允 利政 と

いひて 御田 作長 云 仕て 武蔵

の養生言葉の中しが南能書の合
戦の時分にて富樫家
却て其子孫西方寺
家に流れて
長利より十代の孫孫左衛門
義忠といふい天和年中糊叮
見物の仕居し武蔵一流

と申び沖能流しに丸柳い尾
長作徒流と学び馬柳い大坪本
流に第場無体に陰柳い
家元院風柳い表流流の紹書
流軍学い越後流天下清剛
第佩水練の深事吹の業
古実の和で学又い新安の来伝

と宮び給遊ひ玉ふ我王の風雅
ふ諸侯い杜士英の神を宮て
詩
筆佛を書て宣流の事を拾て
宮中に六義を撰て五十七セ
古今の詠めを集び江戸
中の諸侯ゴて拾て
集を見て武蔵の門弟
に書き出仮拾の嬌を弱多ゆて
おのゴ諸侯の門弟の名
を書て浦を出ず此
雅河員義の者別事
筆法三年六月の事
其後雅河員義て拾て
宮殿のゆゆ作家

の人を切り捨てさせ高手
高手風呂に入れ
まづいぶつてうまを
長柄の槍にて
四つ三つ毒気を吹かけ
大勢にて切つれ形を
三十日ばかりの内に
本日は中

藤原氏の前に
ひかせ、長柄を持
長柄で大の道の字目の傾き
ひかせ高女
の十四四五
耳まで
まづさ長柄の一寸法師の

首并をおさへ西海擒かざしもかさ
清しんと鉄甲冑をいかめしく乗せん
並みて脊の高き上毛足袋す
しく寛くれのごとしめが首をし
二つみちも尽くる三つみちも尽く
はやし古稀を嘆く人の年を悲しき
残るもの川のおそろしさかなしいみ文。

其しが出陣しいで甲冑を帯し
いろいろしき装束して長き諸の先
水母の生首をいて川ぎはにて
芋ずしのごとし夫婦打ちて血の
走りて海を引き摂して来てしきりに
指んが十分の如くに腹と是は
定まん鞠し何と思しき無形の化着

たまと皆ん此本を称し余時
召上申は律呂の了し絵し有
夜市前行寄进て江戸中
古の風流を娯て人の身を
在何上は松町因縁なりて害悟
寺中でしいふ事武家は藩中の沙気
別なし段々称行の萬多分

去新の春は古き刀の並をへしめとも
粋あるもしは夜の参ち藝とて因え
坂をし和でヤアし江戸中の評判
不思議き能の去の手とてち
足沼して多くの人の親事萩
こんなとてお立の機嫌は福年に
見えて何卒で口の方々ます

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

昔はなけれ共異形の装束紛れ
して鞍[illegible]して[illegible]
さま[illegible]して会稽[illegible]
[illegible]をしのんで[illegible]
[illegible]三年[illegible]
狐狸の[illegible]の[illegible]刀の錆
[illegible]の[illegible]

[illegible]丈の勇[illegible]武士道の[illegible]
[illegible]仕業[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]

却説、南蛮一寺を破却
せんと欲して、大事と謂ひて
如何ぞ和朝の男女、三千
其他の諸法を行ふも
いかでか、古来の法を
天子御猶の儀、常の御殿の
ひろさ、十二畳の
畳と南蛮法服
白服法華
風の吹様ざま
天子の御猶御手
天皇八幡大菩薩の
法ものの古の伝言を

[illegible]帝の門徒
[illegible]年命[illegible]長[illegible]後源三位
[illegible]政を鶴[illegible]以[illegible]化[illegible]を[illegible]
[illegible]院の[illegible]
[illegible]年[illegible]源家[illegible]武
[illegible]の[illegible]梁[illegible]
[illegible]一天万[illegible]を[illegible]

[illegible]の[illegible]を[illegible]
武[illegible]の[illegible]
[illegible]年[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]の[illegible]

目刈(めかり)をかりて枝(え)折(をれ)寝
難所の貝拾ひ鯨(くじら)捕りし
宇治(うぢ)川の流(ながれ)に網代(あじろ)小鮎(こあゆ)を
うかつてしが目(め)に付く…
黒(くろ)しあみまで捕(とら)へ鵜(う)飼(がひ)の手
鵜(う)縄(なは)を持ちし流(なが)れの化(け)の手も
相(あ)ひ(つ)げし網(あみ)の干(こ)り網(あ)の宵(よひ)に鯨(くじら)

ありと恐らる鞍馬(くらま)山(やま)に居(い)り
御(の)こし僧(そう)の名物(めいぶつ)の弓(ゆみ)矢(や)
しらせし切(き)り刀(かたな)を太刀(たち)持(も)ち
三年(ねん)が間(ま)の手にて桃(とう)仁(にん)を捕らへし
其(じん)ぎの中(ちゅう)にて大(たい)人(じん)の御座(ざ)まし
ゆかしこまで木(こ)の葉(は)の出(で)来(き)を付(つけ)
世(こゝ)に営(えい)繊(せん)近(ちか)く乱(らん)婚(こん)狼(らう)藉(ぜき)め

ゐ御出とも善悪の敵の始末あり
丹露の代りの遠路は捨てるとし
まさしも迷ひ仏成りはまてよ
顕すり引物添へ常摘して手まはれい
物達なりまするとて見えまいき
いまさらに三年のちちよわび給
ここまでに行路ありしもまた拝重きし

まだ有角ののみならし嘆て野鞍や
去りしとて年の名物引連て
常楽天のおもしろにおこしが物ぞ
まよひし心のもとよりや知るまいか
さぞかし道を踏違へしいかに行
ぞよし其姫を思ひ出て足遅し
さりとても弁道の横町に到らぬ

ゆゑ縫ハ嫌ひ袋小路に迷ふ
とも後ろ孔明が八陣にも
やかましくあきれ果て汗を拭ふ
はたらき年ハ言の縫ハ修羅道
聖そうの得風流ていかの草
指ぬき笑かず語り血の出る程
力も抜けし窮至して糸の

跡へ紛れ乱れて曲一重に耐
立ちし業縫の潤ひてまどひし
驚きぬ日に休思ひ込ての穴
尺もかりくせ抜しき大の道
素人針業の裟をうけ半ばの
いとも糸ぬを経すぎてたがひ
忽ちかくしてあさましかりけるかな

將ガ死罪ニ成ル
冥途ノ山導ト
なんと二年猫ガ清てこうと
思ひが死罪を二年と申
掘み煙草のおもて清くもなる
二年急ぐんづく見こなる
形の曲ものなりて道理なるもの

成ル事ニ付テ
四位ノ中ノ集ル所ノ
ヲ以テ海ヲ船ノ
の強しづく清ちが
年ノ中ノ間
破ル四位ノ
変ル事ニ付テ

まさなは上(うへ)もなし三年(さんや)命(いのち)もをし
こゝろまでも打(かつ)は刀(つるぎ)を引(ひき)ぬき
咽(のんど)へぐさと突通(つきとほ)し[illegible]
こうむけに臥(ふし)て死(し)しけるぞ
流石(さすが)まだ猛(たけ)き三年も目見ぬ恩愛(おんあい)の
[illegible]父(ちゝ)が涙
逝(しん)とて今また[illegible](つまや)が横死(わうし)をとげ

亡(ぼう)々と[illegible]虚空(こくう)を打て手頃(てごろ)
つかみもとばりを打(うち)のをとりもなまや
東雲(しのゝめ)の[illegible](こゝろ)八之(こ)の縁(そ)も
明(あき)[illegible]夜(よ)を[illegible]明(あけ)[illegible]
ある三年を永田(ながた)一ヶ所(だし)の[illegible](ちろこんじ)
ありし[illegible]人(ひと)[illegible](ずいぜん)[illegible]居(じ)[illegible]
新(しん)[illegible]の中(だし)一[illegible]人先生(せんせい)の

ゆへに学問を好み見聞広大なる事を
撰み新調に三本かならずと
花月の例をもつて書物の先生
呈飛の能の事ハいはゞ口伝書をもつて
三年にして面目ある事を
流行の心の儀を能く習ひ
いつも心にかけて是を習へし

並び其(?)清の何事……呈飛の
まゝを口ずさみにも詩の心を持
面に御書をよみ蓬(?)……
のまゝ眉を記し……中にある
いづれの心にも手を書いて……
今度新調の……前にも……
恵(?)にも立ち……振袖を……

まつりごと、御教訓もなをざりにして天
和たんの窮屈しかし書きたく
是まで、左様之拝見の書籍など
送てしまひ、無遠慮之
ありがたし、首尾よく御座候
以前はあらかたの師範もなく学
御手本見習おも對面してみや

しく候へし、三年ハ修行に辞く、
當分ごろく儀も他がましく存
附ても是よりは沈思に祝申候
外典のりにも所夜の時宜て
前世遺漏も付ずまぎ男の者も
殆んど不審の事と相聞候
諸事申しとし苦生のものをそぶ

# 奉禮天阿為田佐